

11企業・団体が受賞

「ひょうご」仕事と生活センター」は2009年の設立以来、県内の企業・団体におけるWLBの取り組みをサポートしてきた。その結果「ひょうご」仕事と生活の調和推進企業認定を受けた企業・団体は98、「ひょうご」仕事と生活の調和推進企業宣言」を行った企業・団体は1328に上つて いる。

冒頭、あいさつに立った 金澤和夫・兵庫県副知事は 「県内では政労使の3者が

足並みをそろえ、全国に先駆けて取り組みを進めてきた。WLBは従業員の士気を高め、能力を發揮させ、ひいては企業業績の向上につながっていく。取り組みがさらに広がり、兵庫県ではWLBが実現している職場がスタンダードになるよう期待している」と述べた。表彰式では、受賞した11企業・団体に表彰状と記念品が贈呈された。続いて、各WLBの推進に当たり、各

企業・団体で推進役を担うために開かれた「キーパーソン養成講座」を受けた20団体22人に修了証書が手渡された。

この後、特別講演で伊藤忠商事の西川大輔氏が「朝型勤務を通じた働き方改革と健康経営」、日本航空の植田英紀氏が「多様な人財の活躍推進とワークスタイル変革について」のテーマでWLB推進の自社の取り組みを紹介した。

金澤副知事から表彰を受ける受賞団体代表者ら＝神戸市中央区、
県中央労働センター

誰もが長く働き続けられる仕組み、風土をつくり、従業員にとっての働きかたと企業・団体にとっての成長を実現するフレック・ライフ・バランス（WL-B）の取り組みを広く発信する「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」がこのほど、神戸市の兵庫県中央労働センターで開かれた。先進的な取り組みを行っている11の企業・団体が表彰され、特別講演では先導的に働き方の改革を進めてきた2社からWL-Bの実践例が紹介された。

3人目の子どもを事業所内託児所に預けて働く施設長の寺地さん

姫路市を中心³⁰に30の介護施設・事業所を運営している。妻鹿明美部長は、自分が子育てと仕事の両立で苦労したこともあり、働きやすい職場づくりに努めてきた。「1~7グループの山下裕史代表が思いやりと理解のある方だったからできた」と振り返る。

まず取り組んだのが勤務体制の見直し。子育て、介護など事情に合わせて働けるよう、シフトの勤務区分を増

やした。現在、社員は11区分、パートは22区分まで細分化され、1日2時間の勤務も可能だ。各施設では「子育てを経て世代」「子育てを終えた世代」「中高齢者世代」の3世代の従業員でバランスよく構成しているのも「同じ市内でも小学校の子どもたちが事が重なった場合などにフォローできるから」だ。

500人弱いる従業員の8割強は女性。

業所内託児所に預けながら働き、リーダー、チーフに昇格。その後、会社から正社員登用を打診され、施設長となつた。利用者はもちろんのこと、職員への目配りを常に欠かさない寺地さん。「普段からコミュニケーションをつけていたからわざかな変化でも気付ける。皆で助け合える施設をさらに目指していきたい」と話す。

事情くみシフト細分化

の寺地冥女施設長は?